

人工種苗の放流効果調査（出雲海域）

（栽培漁業事業化総合推進事業）

清川智之・橋 宣三

1. 研究目的

平成9年度に引き続き、放流したマダイ、ヒラメ人工種苗の水揚げ量、水揚げ金額を推定するための調査を、平成10年4月から11年3月にかけて行った。なお、本調査に係わる市場調査は、水産試験場鹿島浅海分場、松江水産事務所、水産振興課、水産振興協会が共同で行った。詳細は「平成10年度栽培漁業事業化総合推進事業マダイ、ヒラメ放流効果調査報告書」に報告した。

2. 研究方法と結果

(1) マダイ

放流実施状況：笠浦・美保関・諸喰・片江沖で合計 35,863 尾、瀬崎沖で 28,000 尾、御津沖で 35,000 尾、魚瀬沖で 32,000 尾、小伊津・三津・坂浦・地合沖で合計 32,273 尾、大社沖で 20,322 尾、御碕沖で 34,656 尾が放流された。

調査方法：恵曇漁協の沖底、大社漁協の地びき網、釣り、小底1種、定置網、さし網、平田市漁協小伊津支所のはえ縄による漁獲物を対象に調査を行った。測定は尾叉長を計測するとともに、左右の鼻孔を観察した。鼻孔隔壁が認められる個体を鼻孔正常魚、鼻孔隔壁の欠損が認められる個体を鼻孔連結魚とした。

水揚げ魚の年齢組成と放流魚の混獲状況：恵曇漁協における沖底の水揚げ魚の年齢組成は 2、3 歳魚が主体で、石見海域と比較するとやや高齢魚の比率が高い点の特徴であった。鼻孔連結魚の年齢組成を、放流時における鼻孔連結魚の出現率で除して放流魚の年齢組成を推定した。放流魚の混獲率は 3.4% であった。

放流魚の推定水揚げ重量と金額：平成10年4月から11年3月にかけての恵曇漁協における沖底の放流魚の水揚げ重量は 1,424kg、水揚げ金額は 133 万円と推定された。

(2) ヒラメ

放流実施状況：笹子・諸喰・美保関・笠浦沖で合計 13,784 尾、大芦沖で 14,000 尾、古浦沖で 34,737 尾、十六島沖で 14,000 尾、大社沖で 49,476 尾が放流された。

調査方法：恵曇漁協の沖底、美保関漁協の小底2種、平田市漁協の沖底、小底1種、大社漁協の小底1種、釣り、定置網、さし網による漁獲物を対象に調査を行った。調査は全長を計測するとともに無眼側の黒化状況を観察した。黒化が認められないものを無眼側色素正常魚、認められるものを無眼側黒化魚とした。

無眼側黒化魚の混獲状況：無眼側黒化魚の混獲率は恵曇漁協の沖底で 12.7%、平田市漁協の沖底、小底1種および大社町漁協の小底1種で 0.9%、美保関漁協の小底2種で 9.5%、大社町漁協の釣り・定置・さし網で 5.3% であった。

放流魚の推定水揚げ重量と金額：平成10年4月から11年3月にかけての恵曇漁協における沖底の放流魚の水揚げ重量は 3,360kg、水揚げ金額は 407 万円と推定された。